

シラチャ校だより

泰日協会学校
シラチャ校
2018. 10. 2



創立 10 年シラチャ祭

泰日協会学校シラチャ校 校長 久光靖男

10月に入りました。時折降るスコールの強さと、急に変わる芝生の色の鮮やかさに、同時に驚かされている昨今です。雨上がりの見上げた空に見えるひつじ雲もとても懐かしい感じで、タイの国も乾期に向かって少しずつ動いているのを伝えてくれているようです。

さて9月29日に実施した「シラチャ祭」では、たくさんの保護者の皆様においでいただき、児童生徒への励ましをいただきましたことに心より感謝申し上げます。全校で作ったピクアートの迫力も、全校合唱「思いやりの花」の体育館に響き渡る声も、思考を凝らした各学年の発表も、どれも海外にあるシラチャ校ならではのもので、初めてシラチャに来た方には新鮮に感じられたのではないかと思います。加えて創立10年記念シラチャ祭ということで、子どもたちも「創立10年 おめで10」という思いが各学年から伝わって来ているように思いました。ご臨席いただき励ましの言葉をかけていただきましたことに心より感謝申し上げます。

タブレットを活用した ICT 教育を開始

9月7日よりタブレット(中学部36台と、教員用)とタブレット上で教材をリアルタイムに共有し、学びの軌跡を蓄積・活用できるソフトウェア「知恵たま」を導入しました。今後、小学部にも順次進めて行く予定になっています。



高度情報化社会で変化が激しい今、子どもたちが将来必要とされる能力も変わり、学校の学び方も変わっていくことが求められています。なかでも、これからの時代は課題解決能力、“どのように学ぶか”という学び方が重要になります。正解がひとつとは限らない問題に対して自ら情報収集し、他者とコミュニケーションを深めたり、協力したりしながら最適な答えを探す課題解決能力が必要だということです。今回のタブレットの導入がこういった相互通行の学習を容易に実践できるツールになること期待しています。将来グローバルな視点で活躍する日本人を育成するために今後も職員一同、努力して参りたいと思います。保護者の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

タイの果物

タイの気候は年がら年中暑いので、いつも同じように思われているのですが、実はフルーツには食べごろの時期というものがあります。食べごろの旬の時期を外すと美味しくなくなってしまったりするんです。日本でも同じですね。（旬の食べ物というのがタイのフルーツにもあるのです。）

今回は私が大好きなタイのフルーツを最も美味しい食べごろである旬の時期と合わせて、ランキング形式で順に紹介したいと思います。

1位 カヌン ขนุน 日本語 : ジャックフルーツ

食べごろ、旬の季節: 4月から6月頃

タイ独特のジューシーなフルーツ。

ごつごつした厚い皮の中に黄色いもっちりした実がずっしり詰まった果物です。スーパーマーケットなどのフルーツコーナーには置いてなく、タイの市場であるタラートに行けば必ず置いてあるフルーツです。美味しいジャックフルーツの見分け方は匂いを嗅ぎましょう。キツイ匂いほど味が濃厚で美味しいジャックフルーツになります。



2位 ノーイナー น้อยหน่า 日本語 : バンレイシ

食べごろ、旬の季節: 7月から9月までの雨季

南国タイ独特のフルーツ。

このバンレイシというフルーツを見たことある人はどれだけいるのでしょうか？おそらく日本の市場では売っていないでしょう。ほとんど見たことがない人ばかりだと思います。このバンレイシというフルーツは一見大きく見えますが、実際はゴルフボール位の大きさの小さい果物で、味はとても甘いフルーツです。このフルーツの名前はタイ人のニックネームに使われています。ノーイってあだ名の人はこのフルーツからきています。



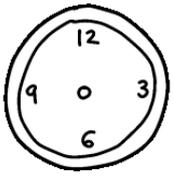
3位 ファラン ฟรุ้ง 日本語 : グァバ

食べごろ、旬の季節: 10月から3月までの乾季

このフルーツはドラゴンフルーツと同様味が薄く、水分が多いフルーツです。日本の梨に味はちょっと似ているかもしれませんが、なお、グァバは鮮度がとても重要なフルーツです。鮮度が落ちると美味しくなくなりますので、ご注意下さい。



(文責: アンティカー)



時は…。平等には流れない!?



ふわりと過ぎて半年が経ちました。気付けば夏休みも終わり、日本の暦ではすっかり秋。秋はよく読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋などのように言われます。それだけ一年の中でも過ごしやすい季節なのでしょうね。

ここタイはどのようなのでしょうか。一年の大半が暑いのですが、近頃少しだけ朝晩の涼しさを感じる場合があります。影の長さや日の入りの時間の変化を見てみると、季節は変わってきているのだなと感じます。

さて、皆さんは「時の記念日」という日があることをご存知でしょうか。今から約1400年前、天智天皇（中大兄皇子）が水時計というものを設置して宮中に時がつげられるようになったのが6月10日にあたることから、1920年（大正9年）に制定されたそうです。近江神宮のある滋賀県出身の方は、毎年お祭りがあるそうなのでよくご存じではないでしょうか。私たちは、1日24時間というサイクルの中で生活をしています。これは世界中のだれでも同じ、平等に与えられたものです。その24時間をどのように使うかは人それぞれですが、1日や1時間が長く感じる時もあれば、短く感じる時もあります。

『人の一生は29200日、70万800時間』この言葉は、私が高校時代に社会の先生が話をしてくれたものです。人生80年を日数で表すと29200日。人間どんなに長生きをしたくても200年も300年も生きられるわけではありません。長くても100年。つまり、私たちの一生は30000日前後から増えることはない。だから、人生は足し算ではなく引き算なのかもしれません。限りある人生だからこそどう生きるかが大事です。

私は今年で38歳。これまで約13870日の日々を過ごしてきました。日本人の男性の平均寿命81歳まで生きたとしたら、残り約15700日の人生です。今から20年前、高校生だった私は、人生80年と言われても漠然として何も想像できませんでしたが、人生は29200日から毎日減っていつに尽きていくと言われてたら、感慨深いものがあったことを覚えています。

何かの縁があって現在タイに住んでいる私たち。1日1日が全て充実したものにできるかどうかは難しいでしょうが、気の持ち方ひとつで今後の人生が大きく変わるような気がします。日々の時間を大切にしたいものです。

（文責：小湊 真之）